

弘大出版会賞に郡理事ら 郷土文学の可能性を提示

弘前



第12回弘前大学出版会賞
に、同大の郡千寿子理事

受賞作品の編著者の郡理事(右奥)と仁平
准教授(オンライン画面)

(研究担当)・副学長と、
仁平政人東北大学大学院文
学研究科准教授が編著者の
「青森の文学世界へ北の文
脈」を読み直す」が選ば
れ、12日に同大附属図書館
で表彰式が行われた。
今回は、2019年1月
〜20年12月に刊行された
11作品を対象に審査した。
同書は、県ゆかりの文学者
8人について、文学研究や
日本語学、哲学などさまざ
まな角度からその魅力や
可能性を示しており、「時
代や年代を問わずに楽し
める文学の良さに、青森と
いう地域の匂いを味わうと
いう楽しみが加わった」

「郷土文学の新しい見方を
提示した」などと評価され
た。
表彰式では福田真作学長
があいさつし、水田智史審
査委員長が「作品を読んだ
ことがない人でも楽しむこ
とができるなどの声もあ
り、『世界に発信し、地域
と共に創造する』という本
学のスローガンにも合致し
ている」と講評した。
これらを受け郡理事は

「関西の出身で、青森に來
てからその風土、文化に魅
せられた。大げさに言うと
文学や芸術は時に魂を救う
役割を果たす。本書が青森
の魅力はもろろん、文学の
力を改めて感じるきっかけ
になってほしい」とし、オ
ンラインで参加した仁平准
教授も「青森の文学の多面
性や豊かさを編集を通して
改めて認識した」と語っ
た。(西尾瑛)

※この記事は陸奥新報社の提供です。

[問合せ先]弘前大学出版会

hupress@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。